

2003.02.27：平成15年度 予算等審査特別委員会（第2日目）

委員長

御異議なしと認め、そのようにさせていただきます。

次に、第5号議案平成14年度仙台市老人保健医療事業特別会計補正予算（第1号）、この際、件名の朗読を省略いたします。以下、第6号議案から第8号議案まで及び第14号議案についてであります。いずれの会派からも質疑通告がございませんので、本件については総括質疑を除き終了いたしました。

次に、第15号議案平成15年度仙台市一般会計予算、第1条歳入歳出予算中、歳出第1款議会費、第2款総務費、第2条債務負担行為中、事務機器賃借等、仙台市土地開発公社公共用地先行取得事業、仙台市土地開発公社事業資金債務保証、公共事業移転等資金利子補給、公共事業移転等融資損失補償、第3条市債中、地域総合整備資金貸付事業費についてであります。

みらい仙台から発言予定の方は、質疑席にお着き願います。

池田友信委員

それでは私は、総務費の中で、企画局が担当されると思いますが、企画管理費及び交流推進費、いわゆるシティセールス推進に要する経費に関連してお伺いいたします。

都市の活力を生み出す政策に関連して本会議で私は仙台ナンバーの実現についてお伺いをいたしました。この仙台ナンバーについては以前にも議会で提言をいたしました。まずお伺いしたいのは、その仙台ナンバーについてその後どんな調査をされ、どういう検討に取り組みられてきましたか、それについてまずお伺いしたいと思っております。

企画調整課長

仙台ナンバーにつきまして、その実現に向けまして平成2年ごろから国に対する要望行動を行ってまいりました。また、平成6年秋からは、仙台ナンバーの実現に大いにつながる可能性のある自動車検査登録事務所の古川市への設置要望につきまして、宮城県市長会を通じて行ってまいりました。しかしながら、国におきまして自動車検査登録事務所の新設なしに新規の地域名表示を認める考えはなかったと。それから、その事務所申請につきましても、昨今の行財政改革の推進がありまして極めて困難であったと。このような事情から、これまで仙台ナンバーの実現に至っていないという状況でございます。

池田友信委員

いろいろ紆余曲折があったと思うんですが、自動車のナンバーというのはシティーセールスに大変大きな効果があるということで、各都市では非常に長い間のこの厳しい状況の中でもいろんな形で取り組んで獲得をしてきております。例えば我々通常ではなかなか知り得ない小さなまちでも、例えば「袖ヶ浦」というのがあります。千葉の中でも、私はナンバーでもってその都市を知り得ると。あるいは「尾張小牧」という二つの名前の入ったナンバーがあります。これは両方とも、尾張、小牧、譲らずして、最終的には両方の都市名をつけて何とかひとつ落ちついたと、こういう形でナンバーに二つの都市名が入っています。それから最近では、相模ナンバーが「湘南」に変わりました。これは、地名を獲得したんだけどイメージをアップしようということで、相模国の「相模」から、海岸で豊かな観光地であるという印象をナンバーでもって訴えようと、ということで「湘南」という名称に変えてシティーセールスをアピールしております。宮城も、宮崎か宮城かわからないということで、宮ナンバーから「宮城」に変わったことは皆さんも記憶していると思いますが、そのように各都市いろいろ地名をPRするということで一生懸命であります。この東北の中においても、「青森」「八戸」と青森県でも2カ所ありますし、あるいは「山形」「庄内」、「福島」「いわき」と、それぞれ各県で二つの地名を何とかアピールしようということで、これは陸運事務所の登録業務をより円滑にするというだけではなくて、そういう意味合いも含めて取り組んできているわけでありませぬ。

従来は、先ほど答弁にもありましたように、自動車の検査場の登録事務所を新設しなければその名称を新しく変えるということが難しいという状況であったわけですが、そういった行政改革の中で事務所をふやすということが非常にままならない状況の中で、地域名の表示をするには、こういうことかどうなのかという働きかけがありまして、いわば地域振興政策、観光振興政策、シティーセールスということで、今、国土交通省の中では懇談会まで開いて、何とかこれを16年中に中間報告をまとめてこの新しい方法について考えてみよう、取り組んでみようということで、国の機関の中での審議会で行っているわけでありませぬ。

このナンバーというのは、もう単なる名称の段階ではないんです。伊豆なら伊豆のナンバーの「伊豆」という文字だけじゃなくて、ナンバーそのものにカラフルなカラーとか模様を入れてはどうかという第3段階なんですね。仙台はまだ地名も入っていません。そういう部分では、ほかのところではその地名、プラス、イメージアップということで取り組んでいる。その審議会の中に仙台のせも入っていないというところに、この政令都市の中で仙台という地名アップをする一つのこういう機関に織り込んでもらおうと、あるいは織り込んでいこ

うという意欲というものが、私は欠けているんじゃないかと思います。今現在、会津、伊豆、倉敷という3都市が今挙がっているようですが、この中で1回トライをしてみてもはいかがかと私は思うんです。この機会を逃すと、私は仙台という地名をアップすることはまだまだ先になってしまうと。この機会に何とかひとつ織り込むということをしないと、私は非常にこういった形の機会の中でも仙台は立ちおくれるというふうに思うんですが、この際、この仙台という地名、ナンバーについての取り組み方を強化して取り組むべきじゃないかと思うんですが、御所見をお伺いします。

企画局長

この仙台ナンバーにつきましては、市民の仙台に対する愛着を高め、お話にもありました他の地域への本市のシティーセールスの展開の観点からも実現が期待されるところでございますので、本会議でも御答弁申し上げましたが、この機をとらえ国に対して強く働きかけてまいりたいと思っております。

池田友信委員

強く働きかけるということではありますが、私は一番強く働きかける姿勢を出すのは、やはりその首長の姿勢ではないかと思うんです。各それぞれ小さな都市の中では各首長が国に対して一生懸命働きかけをしております。まず最初にこれをやる気があるのかなのかということとは市長の強い姿勢を示さないと、これからの展開に当たって、仙台市だけでは進まない問題でもありますから、したがって、市長の強い姿勢と決意のほどをお伺いしたいと思います。

市長

仙台ナンバーにつきましては、私どもも古川市と一緒にしまして、古川は仙北の管内のもう一つの検査登録事務所ということで、長い間、宮城県市長会の重点目標で国に働きかけてまいりましたが、先ほど課長の方からお話がありましたような事情によりまして、もう少しというところでその先が見えなくなってしまったという経過がございます。

これは私どもの長年にわたる宿願でもございますし、また、市民もこのことを強く要望しているところでございますので、この機会、ちょうど事務所の関係につきましては制約が弾力化されて、表示につきましてはより弾力的な扱いができるような委員会ができたということでございますので、そこに向かって機を逃さずに、おくれをとることのないように、我々としてのアクションを起こしてまいりたいと考えます。

池田友信委員

そこで、これからの中での進め方は今までの展開とは違う形になると思うんです。今までは陸運事務所を増設する、そういう部分で古川に用地を考えて、古川の市長さんに何とかまとまってそこに事務所を誘致することについて取り組んでほしいと。こういう形で取り組んできたのが、事務所新設が難しいという形になりますから、いわば今までの展開と違った形に変わるということに対して、その合意をとることが私は必要だと思うんです。したがってそれについては、私は市長のこれからの戦略・戦術が必要だと思うんです。そういった方々に対しても、これから新しい仙台というエリアについてひとつ申し入れをしますから、それについて御了解いただきたいというのが一つ。

それからもう一つは、その仙台を冠とするエリアをどこまでにするかということに対する隣接市町村との合意、協力、そのエリアに対して県の納得、合意、理解、これが私は必要……、でない、ここで地元でもたもたしていたら、私は国の方ではなかなかすんなり受け入れられない。もう会津とか伊豆とかという部分については、そういうエリアがある程度まとまって、地域もまとまっているからひとつ頼むと、こういう形になっていると思うんです。仙台はこれからでありますから、今までの展開とまた新しい形の中での理解と協力を得るための戦略・戦術が私は必要だと思うんです。したがって、それを含めて民間の支援体制とかというものがないと。私は、市長だけがこぶしを振り上げてやるからといっても、それはみんなでそういう理解というものが地元であるのかということに対して、その辺に対する働きかけ、戦略・戦術を持たないといけないと思うんですが、その戦略・戦術が市長におありでしたらお伺いしたいと思います。

市長

おっしゃるとおりでございます、一つには、これまでの経過がございますので古川市に対しての仁義を切るということがまず一つ必要ですし、もう一つは、新しく仙台ナンバーということでございますので、そのエリアを合意を得て運動していくということになりますので、周辺の市町村、そしてまた商工会議所を初めとする民間に対しての合意形成というのを早急に行いまして、具体的なアクションに入っていきたいと思っております。

池田友信委員

非常に昨今のこの景気低迷の中、何か新しい、やはり仙台として躍動する、あるいは意欲を持って、希望が持てるような、そういう政策ということについては、私はこの一つの仙台という名称を全国に発してもらうことによって非常に

大きな意味があると思うんです。仙台という名前が、例えば夏の時期にある地方に行けば、仙台というナンバー、名称を見ただけで「あ、七夕だな」と、こんな形でお客さんが来るかもわかりません。冬の中で走っている仙台ナンバーを見れば、「あ、仙台のページェントか、行ってみようかな」と、こんな形になるかもわかりません。いわば地域の中で仙台という名前とそして仙台に対する思いを発信するというこれは絶好の機会でありまして、したがって、そういう意味でぜひこの仙台ナンバーを実現すると同時に、今低迷しているこの景気を何とかひとつ仙台的意欲をもって盛り上げると、そういった意欲を市長みずから持って、これから大いに民間の方々の協力をいただいて盛り上げるという絶好の機会だと思いますので、その辺について積極的に御展開をいただきますようお願い申し上げまして質疑を終わりたいと思います。